

令和 4 年度事業報告



社会福祉法人 双樹会

目 次

法人本部	2
事業所別実績報告	
特別養護老人ホーム 陽光の家	5
陽光の家 短期入所生活介護	13
陽光の家 通所介護事業所	14
陽光の家 居宅介護支援事業所	16
広島市城山・五日市観音地域包括支援センター	19

【取り巻く環境】

新型コロナウイルスの感染症に伴う全国のまん延防止等重点措置は2022年3月末をもって全て解除された。国内景気は、ウクライナ情勢等を背景とした原材料価格の上昇や供給制約等が下振れリスクとなっているが、経済社会活動の正常化が進む中で、上向きの動きが続いている。

この中で感染症対策を継続し、感染対策や消耗品の確保、利用者及び職員の継続的な検査やワクチン接種の対応に迫られた。感染状況に伴って面会の中止やオンライン面会への切替、予定行事の変更や中止、物品の確保などに対応した。また、特養の入所者で感染クラスターが発生し、のべ35人が感染した。

法人本部

1. 役員及び評議員

今年度は安本監事が退任し、川西監事が選任された。また、中尾評議員が退任された。

理事・監事及び評議員名簿

令和5年3月31日現在

理事長	中村 貴志				
理事	佐々木 昇	塚野 健	天田 美津子	佐藤 誠	松井 誠
監事	川西 隆弘	大成 洋子			
評議員	川崎 正雄	石田 博文	沖元 道博	吉田 一男	伊賀 浩子
	瀬井 武三	増田 昭美			

2. 理事会・評議員会・監査の開催状況

【理事会】

回	日 時	場 所	議 案	出席状況 上段：理事 下段：監事
1	R4.6.4 13:30～	ナカムラ病院 研修室	(1) 令和3年度事業報告について (2) 令和3年度計算書類及び附属明細書並びに財産目録の承認について (3) 令和4年度定時評議員会の日時及び場所並びに議案について	6/6 1/2
2	R5.3.18 13:30～	ナカムラ病院 研修室	(1) 令和4年度補正予算について (2) 令和5年度事業計画について (3) 令和5年度予算について (4) 規程の変更等について	5/6 2/2

【評議員会】

回	日 時	場 所	議 案	出席状況
1	R4. 6. 18 13 : 30～	ナカムラ病院 研修室	(1) 令和3年度決算書類について (2) 監事の選任について	5/8

【評議員選任・解任委員会】

回	日 時	場 所	議 案	出席状況
	開催無し			

3. 監査

(1) 令和4年度社会福祉施設等指導監査について

令和5年1月25日(水) 10:00～実地監査が行われた。

<文書指摘事項>

・なし

4. 施設整備等

<施設修繕(大型)工事等>

時期	内容	場所	業者名	金額
5月	厨房ドア取替工事		(株)エイコー	198,000円
7月	照明器具取替工事	包括	(株)エイコー	151,800円
合計				349,800円

<器具備品購入等>

時期	内容	場所	業者名	金額
7月	ノートパソコン購入	特養	リコージャパン(株)	114,840円
1月	車いす	特養	深川医療器(株)	100,000円
2月	面会室エアコン	1階	(株)エイコー	107,800円
合計				322,640円

5. 職員研修実施状況

(1) 施設内研修一覧

日付	研修名	講師・発表者	人数
3/28	事例発表「眠り SCAN 導入に伴うケア事例」	井田(梨)介護職	10
年間	特定行為従事者研修		

社外講師

日付	研修名	講師	人数
5/12	人事考課と面接指導	外部講師： (有)コンサルティングブレイン 縫部 毅 氏	5
9/22	公平公正な考課者レベルアップ研修		6
10/27	令和４年度前期事業計画進捗会議		6
1/26	令和４年度事業計画進捗会議		6
2/16	評価、指導、フィードバックと目標管理		6

(２) 施設外研修受講一覧(抜粋)

時期	研修名	実施機関	人数	職種
4/6	ケアマネ自主勉協会打合せ	佐伯区ケアマネ自主勉協会	1	ケアマネ
5/17	地域の支えあいを広げるための勉強会	広島市高齢福祉課	1	社会福祉士
5/19	地域包括支援センター職員初任者研修	広島県地域包括・在宅介護支援センター	1	保健師
5/25	高齢者虐待対応研修	広島県地域包括ケア推進センター	1	ケアマネ
5/31	介護実習連絡会議	トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校	1	介護職
6/7	接触嚥下障害における食事形態の重要性	ナースの星	1	栄養士
6/15	災害時対応	佐伯区介護支援専門員自主勉協会	2	ケアマネ
6/26	ICT・介護ロボット体験会、相談会	広島県介護福祉士養成施設協会	1	介護職
7/5	安全運転管理者講習	広島県安全運転管理協議会	1	施設長
7/8	在宅医療介護連携交流会	広島市佐伯区地域保健対策協議会	2	ケアマネ
7/15	AKI の栄養管理	明治	1	栄養士
7/15	介護福祉士実習指導者講習会	広島県介護福祉士会	1	介護職
8/5	自立支援型地域ケア個別会議司会者会議養成研修	広島県地域包括ケア推進センター	1	保健師
8/11	若年性認知症の理解と両立	広島産業保健総合支援センター	1	ケアマネ
8/19	認知症サポーターステップ講座	広島市高齢福祉部	1	保健師
9/15	居宅サービス計画作成演習	広島市域居宅介護支援事業者協議会	1	ケアマネ
9/24	介護福祉士基本研修	広島県介護福祉士会	1	介護職
9/26	優良事例に学ぶ！健康経営セミナー	広島県	1	事務職
10/5	健康経営優良法人セミナー	全国健康保険協会広島支部	1	事務職
10/5	認知症実践者研修	広島市老人福祉施設連盟	1	介護職
10/17	佐伯区管内給食施設従事者講習会	広島市保健所	1	栄養士
10/21	西部地区病診連携講演会	広島市佐伯区地域保健対策協議会	1	ケアマネ
11/15	介護予防ケアマネジメント指導者研修	広島市	1	ケアマネ
11/29	広島県自立支援型ケアマネジメントアセスメント力向上研修	広島県地域ケア推進センター	1	プランナー
12/2	治療と仕事の両立支援セミナー	広島県健康福祉局健康づくり推進課	1	事務職
12/12	広島市住民主体型生活支援訪問サービス専門職研修会	広島市高齢福祉課	1	社会福祉士
12/16	認知症研修会	広島市佐伯区認知症サポート医会	2	保健師、ケアマネ

1/28	認知症研修	西部認知症疾患医療センター	1	社会福祉士
1/31	感染症対策	広島市佐伯区地域保健対策協議会	1	保健師
2/9	佐伯区・西区合同地域保健対策協議会シンポジウム	広島市佐伯区地域保健対策協議会	1	ケアマネ
2/14	胃食道逆流を呈する場合の栄養管理	明治	2	栄養士
2/15	在宅医療・看護・介護の今を考える	しみず薬局	1	保健師
2/16	バックオフィス業務デジタル化セミナー	OBC	1	事務職
3/8	経営分析セミナー	応研(株)	1	事務職
3/26	ケアマネジメント広島大会	広島県介護支援専門員協会	2	保健師、ケアマネ

全体で 69 件、延べ 76 人が施設外研修へ参加した。うちオンラインは 48 件であった。

6. 資格取得支援制度利用状況

研修名	主催者	人数
介護支援専門員 更新研修Ⅱ	広島県介護支援専門員協会	3
介護支援専門員 合同研修	広島県社会福祉協議会	2
合計	5 名	

合計 5 件 4 名 研修等費用＋交通費 247,840 円支出

7. 助成金活用状況

事業主体	事業名	支給決定金額
厚生労働省広島労働局	両立支援等助成金	340,336 円
広島県	処遇改善支援補助金	2,183,750 円
広島市	負担軽減費用助成事業費補助金	16,000 円
	物価高騰対策支援事業支援金	2,119,000 円
廿日市市	負担軽減費用助成事業費補助金	17,000 円
日本福祉用具協会	介護ロボット補助金	340,700 円
合計		5,016,786 円

事業所別実績報告

1. 特別養護老人ホーム 陽光の家

I. 入所者の状況

(ア) 年間入所者の推移

4 年度は、退所者 8 名・入所者 12 名、令和 5 年 3 月 31 日現在、在籍 49 名で終了した。退所者の内訳は、死亡退所 7 名（施設で看取り介護を行った）、長期入院による退所 1 名となり、退所者は前年度より 5 名減少。延べ利用者数は、特養入所者 17,324 名、空床 72 名、合計 17,396 名で前年度より 967 名増加。稼働率は、95.3%で前年度から 5.3%増加、1 日当り 47.7 名が利用したこととなった。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
月末在籍数	48	46	46	49	49	48	47	47	47	46	47	49	
入所	3	1	1	2	0	0	1	0	1	0	1	2	12
退所	0	2	1	0	0	1	2	0	1	1	0	0	8
延べ利用者数	1,406	1,478	1,405	1,495	1,519	1,442	1,478	1,403	1,477	1,439	1,307	1,475	17,324
空床利用	15	12	30	15	0	0	0	0	0	0	0	0	72
合計	1,421	1,490	1,435	1,510	1,519	1,442	1,478	1,403	1,477	1,439	1,307	1,475	17,396
1日平均実績	47.4	48.1	47.8	48.7	49.0	48.1	47.7	46.8	47.6	46.4	46.7	47.6	47.7
前年度実績	1,346	1,402	1,353	1,358	1,394	1,371	1,444	1,352	1,397	1,373	1,229	1,410	16,429
対比	75	88	82	152	125	71	34	51	80	66	78	65	967

入所12名の退所日から次入所までの日数は延べ1,138日で1名当たり94.8日となり、3年度88.4日より6.4日長くなった。また、4年度に医療機関に入院した者は4名（内1名は入院中退所）で、延べ入院日数は68日であった。

(イ) 要介護度別利用者人数（1日平均）

令和5年3月末現在、49名の入所者のうち全てが要介護3以上。年間平均介護度は、4.15で前年より0.01低くなった。

	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計	平均介護度
4年度	0	0	11.2	18.1	18.2	47.5	4.15
前年度	0	0.4	8.9	18.5	17.0	44.8	4.16
対比	0.0	▲0.4	2.3	▲0.4	1.2	2.7	▲0.01

(ウ) 入所者年齢別及び平均年齢（令和5年3月末日現在）

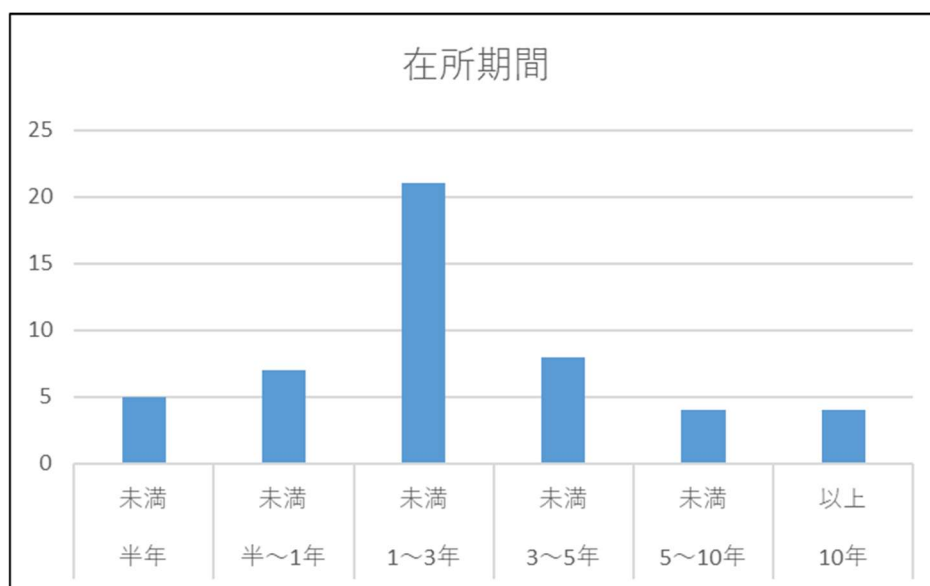
男性と女性の入所人数は、男性4名・女性45名。平均年齢は、前年度の86歳8ヶ月から87歳3ヶ月へ、最高年齢者は、前年度の108歳から104歳となった。

歳	60代	70代	80代	90代	100代	合計	平均
男性	0	0	3	1	0	4	84歳0か月
女性	2	4	22	15	2	45	87歳7か月
合計	2	4	25	16	2	49	87歳3か月
最高年齢	104歳		最少年齢		63歳		

(工) 入所者在所期間 (令和5年3月末日現在)

年度末在籍者の平均在所期間は、3年3ヶ月であった。最長在所者は男性7年10ヶ月・女性14年2ヶ月となった。

期間	半年未満	半～1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10年以上	合計	平均
男性	0	1	1	1	1	0	4	3年6か月
女性	5	6	20	7	3	4	45	3年3か月
合計	5	7	21	8	4	4	49	3年3か月
最長在所			14年2か月		最短在所		1日	



(才) 保険者別人数 (令和5年3月末日現在)

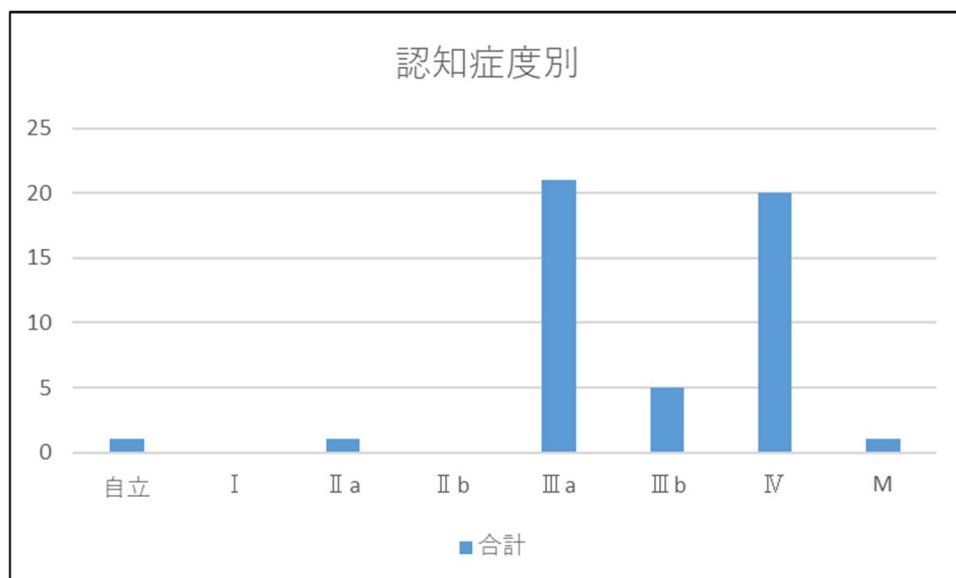
前年同日と比べ佐伯区は6名増加、西・中区は1名減少、東・南区、安佐南区、廿日市、大竹市、大崎上島、北広島町はそれぞれ同数であった。佐伯区の占有率は73.5%。

保険者	佐伯区	西・中区	東・南区	安佐南区	廿日市	大竹市	大崎上島	北広島町	合計
男性	4	0	0	0	0	0	0	0	4
女性	32	4	1	2	3	1	1	1	45
合計	36	4	1	2	3	1	1	1	49

(力) 認知症度別人数 (令和5年3月末日現在)

下記の表のとおり、49名の入所者のうち47名が認知症度Ⅲ以上。前年比Ⅲ以上10名の増加となった。

認知症度	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	合計
男性	0	0	0	0	2	2	0	0	4
女性	1	0	1	0	19	3	20	1	45
合計	1	0	1	0	21	5	20	1	49



(キ) 入所申込者の状況

令和 5 年 3 月末の申込者数は 272 名。申込者の介護度分布は下表のとおり。

	要介 1	要介 2	要介 3	要介 4	要介 5	合計
令和 4 年 3 月末	18	24	70	83	45	240
令和 5 年 3 月末	19	20	87	90	56	272

Ⅱ. 職員の状況

[] 内の人数は部署間異動

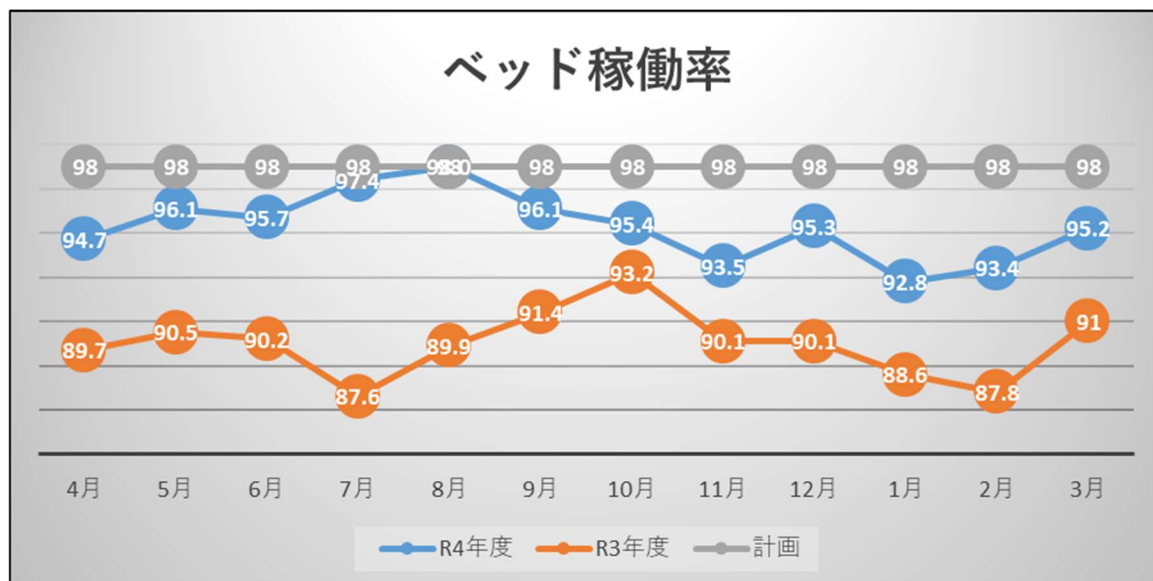
特養・短期入所 職種	令和4年度期首(4月)			期中		期末(3月)			配置 基準
	人数	内非常勤	常勤換算	採用[異動]	退職[異動]	人数	内非常勤	常勤換算	
施設長	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	1
医師	1	1	0.1	0	0	1	1	0.1	1
生活相談員	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	1
介護支援専門員	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	1
機能訓練指導員	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	1
看護職	4	0	4.0	2	1	5	0	5.0	2
内 正看護師	0	0	0.0	2	0	2	0	2.0	
沢 准看護師	4	0	4.0	0	1	3	0	3.0	介護・看護
介護職	25	6	22.6	7	7[1]	25	7	21.9	17
内 介護福祉士	21	4	19.3	4	4[1]	21	5	18.9	
沢 その他	4	2	3.3	3	3	4	2	3.0	
管理栄養士	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	1
当直専門員	3	3	2.5	0	0	3	3	2.5	
事務員	3	0	3.0	0	0	3	0	3.0	
合計	41	10	37.2	9	8	42	11	37.5	

Ⅲ. 令和 4 年度事業計画の実施状況について

● ベッド稼働率 98%・・・実績 95.3%

退所から入所の調整が追い付かず計画の稼働率を下回る結果となった。令和 3 年度に引き続いて、インフルエンザにもノロウイルスにも罹患することなく終わられたが、新型コロナウイルス

の感染クラスターが7月と12月の2度あった。



① 自立支援・重度化防止の取組の推進

- ・機能訓練、栄養、口腔の一体的な連携強化
- ・科学的介護の取組
- ・アウトカム評価の取組
- ・専門性向上のための各委員会活動
- ・自立支援促進の取組
- ・認知症対応力向上

< 報告事項 >

各職種で一体的に科学的介護に取り組んだ。介護職は、褥瘡予防、排泄ケアのアウトカム評価の取組、栄養は栄養ケアの強化、機能訓練は年間を通じて心身機能の評価を行った。介護・看護・機能訓練指導員が共同で実施を行った。

[ノーリフトケア委員会]

各利用者様の移乗方法などについて検討を行う。

委員会開催：5/17、6/9、7/16、10/27

[食事・口腔委員会]

口腔内の清潔を保持し誤嚥性肺炎を防ぐ取り組みを行っている。

委員会開催：5/17、6/22、7/5

[排泄委員会]

一人一人に適した排泄ケアを目指し、定時の排泄から個別時間に合わせた、排泄支援を行う。

委員会開催：5/13、6/13、7/11

[入浴委員会]

入浴マニュアルの見直し、入浴形態の精査、入浴表や人数調整等を行う。

委員会開催：4/8、5/25、6/15、7/7、8/22、9/14、10/12

② 人材確保・育成・定着

- ・年間計画での外部研修への参加、勉強会の開催
- ・介護機器による業務効率化の推進

< 報告事項 >

高齢者虐待、身体拘束、感染症予防、看取り、褥瘡予防、ノロウィルス、介護福祉士とはと様々なテーマで勉強会を行った。

勉強会開催：6/20・28・29、10/30、11/7・8・9・10・14・15・17・24、12/8・9

③ 地域貢献

- ・介護教室、介護相談会開催
- ・地区社協との協力連携
- ・地域行事への参加、協力、連携
- ・ボランティア受入、連携
- ・講師派遣

< 報告事項 >

令和4年度広島市受託家族介護者教室 主催

開催日	テーマ	講師	参加人数
11/20	「はじめての終活」	施設長	10

【ボランティア定期】

活動	部署	活動日時	名称
書道クラブ	通所	(中止)	伊賀 浩子 様
話し相手・歌など	特養	(中止)	観西ボランティア
外出支援	特養	(中止)	観西ボランティア

【ボランティア演芸（スポット）】

来園日	団体等名称	内容
(中止)	実り会	歌・踊り
(中止)	琴伝流大正琴	琴演奏
(中止)	そよ風	歌・踊り

● 実習生の受け入れ

実習依頼元		実習期間	人数	備考
1	IGL 医療福祉専門学校	R4. 5. 30～6. 18	2	介護福祉学科 2 年
		R4. 11. 28～12. 10	1	介護福祉学科 1 年
2	広島国際医療福祉専門学校	R4. 7. 4～7. 19	1	介護福祉学科 1 年
3	広島福祉専門学校	R4. 10. 17～11. 16	2	介護保育科 3 年
合計		3 団体	6 人	

Ⅳ. 食事（栄養・調理）実施状況

栄養ケアプランは、カンファレンス等で情報共有しその都度食事への反映を行い、利用者本人や家族への説明を行った。これにより、利用者それぞれの状態に合わせた食事の提供と栄養状態の改善を図ることができた。また、食を通してコミュニケーションを図るように季節感のある食事の提供を行った。

(ア) 食事形態 (令和 5 年 3 月 31 日 現在)

食事形態	常食	キザミ	極キザミ	ペースト	経管栄養
食事数	12	9	13	11	2

(イ) 年間療養食加算取得状況

	貧血食	糖尿病食	心臓病食	腎臓病食	脂質異常
実人数	1	7	1	4	0
延べ日数	365	2,095	343	798	0

(ウ) 栄養年報 (令和 5 年 3 月 31 日 現在)

区分／栄養量	エネルギー k c a l	たんぱく質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄 mg	ビタミンA μ g	ビタミンB1 mg
栄養所要量	1,524	62.9	42.4	654	6.3	664	0.82
栄養摂取量	1,520	58.3	39.6	481	5.2	634	0.53

栄養所要量（計画）

栄養摂取量（実績）

(エ) 行事食等

内容		実施日	内容		実施日
お花見	水羊羹とほうじ茶プリン	4/5	端午の節句	散らし寿司	5/5
七夕	七夕ゼリー	7/7	土用の丑の日	うな井	7/23
夏祭り	バイキング	7/31	十五夜	月見うどん	9/10
敬老の日	散らし寿司	9/19	忘年会	バイキング	12/11
クリスマス	Xmas メニュー	12/24	大晦日	年越しそば	12/31
新年	おせち料理	1/1	七草	七草粥	1/7
鏡開き	ぜんざい	1/11	節分	巻き寿司	2/3

バレンタイン	フルーツチョコ	2/14	ひな祭り	三色押し寿司	3/3
	郷土料理	毎月 1 回	誕生日	誕生日メニュー	毎月 1 回

V. 防災訓練等

(ア) 自衛消防訓練実施状況

実施日	訓練内容	参加者				備考
		入所者	通所	職員	計	
7/21	総合訓練（夜間想定）					施設内感染により中止
11/17	総合訓練（夜間想定）	17	0	12	29	消防署立会：1 名

(イ) 非常食備蓄状況

（令和 5 年 3 月 31 日現在）

種類	水	主食			副食	
		ご飯	粥	ミキサー粥	レトルト食品	缶詰
数量	20×330 本	900 食	200 食	50 食	440 食	408 食

VI. 広島市受託事業

広島市受託事業は、利用者なし。

受託業務名	実績金額	実利用者	延べ利用者
広島市重度身体障害者入浴サービス事業	0	0	0
広島市生活指導短期宿泊事業	0	0	0

VII. クレーム対応・・・0 件

VIII. 医療機関受診事故・・・3 件

- ① 令和 4 年 8 月 10 日（水） 5：50 頃発生。要介護 3 88 歳 女性

フロアにて左側を下にした状態で転倒している本人発見。左ほほ打撲。

令和 4 年 8 月 15 日 広島市報告

- ② 令和 4 年 10 月 17 日（月） 14：30 頃発生。要介護 5 92 歳 女性

入浴着衣後、ベッド右側へ転落。看護、介護者共にベッド左側で車いすの準備をしており、転落の音で気づく。左膝上骨折。

令和 4 年 10 月 21 日 広島市報告

- ③ 令和 5 年 1 月 23 日（月） 13：00 頃発生。要介護 5 62 歳 女性

入浴のため、脱衣したところ左大腿部が腫れているのを発見する。左大腿骨転子部骨折。

令和 5 年 1 月 28 日 広島市報告

2. 陽光の家 短期入所生活介護事業所

I. 利用者の状況

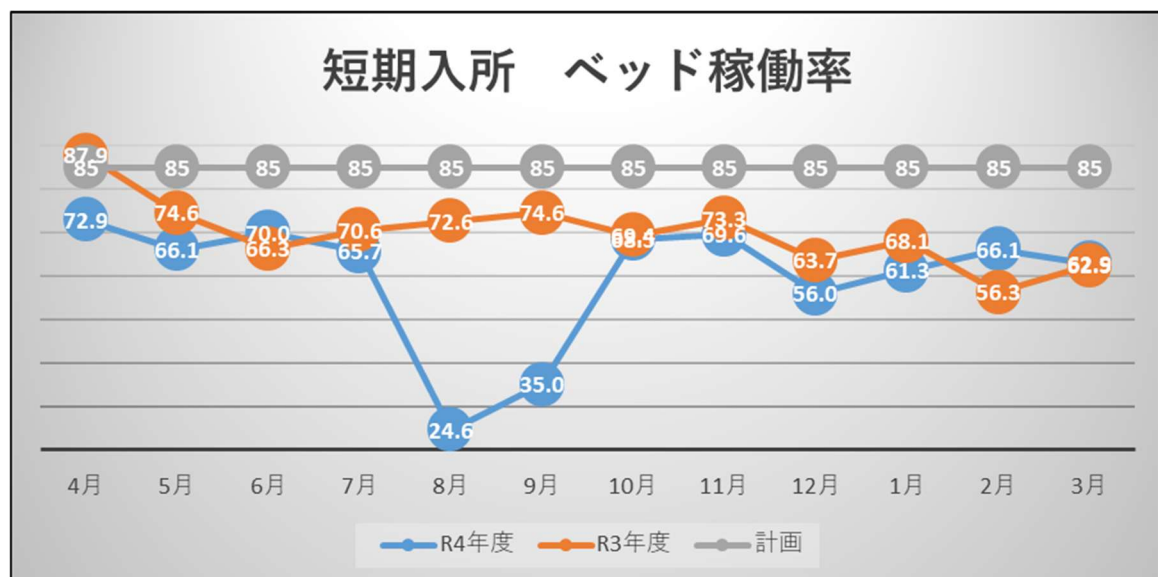
4年度は、月平均実利用者は19.1名、前年対比1.7名減。延べ利用者数の前年対比は298名減少。

介護度	要支1	要支2	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計	平均		
									介護度	実利用者	稼働率
4年度	0	14	63	379	345	413	533	1,747	3.57	19.1	58.9
前年度	0	48	42	409	443	596	507	2,045	3.47	20.8	72.1
対比	0	▲ 34	21	▲ 30	▲ 98	▲ 183	26	▲ 298	0.1	▲ 1.7	▲ 13.2

II. 令和4年度事業計画の実施状況について

● ベッド稼働率 85%・・・実績 58.9%

ベッド稼働率は前年72.1%から59.8%へ12.3%減少となった。



- ・在宅介護の継続支援（定期的・緊急時の利用対応）

< 報告事項 >

緊急時の利用時、担当ケアマネジャーと調整を図りスムーズな空きベッドを活用に努めた。また、家族の体調不良などで、利用延期など、ベッド調整行い対応を行った。在宅支援を行う為に、担当者会議に積極的に参加した。特養での感染クラスター発生期間は、受け入れを中止した。

III. クレーム対応[令和4年度苦情報告]・・・1件

① 令和4年4月18日（月） 受付

ご利用者家族より、利用の最終日が入浴なのに臀部に便が付着している。また、体重測定もお願いしているが2か月測定してもらえていない。

【対応】謝罪を行うとともに、職員間での周知徹底を行う。

IV. 医療機関受診事故・・・〇件

3. 陽光の家 通所介護事業所

I. 利用者の状況

(ア) 1月当たり平均実利用者数

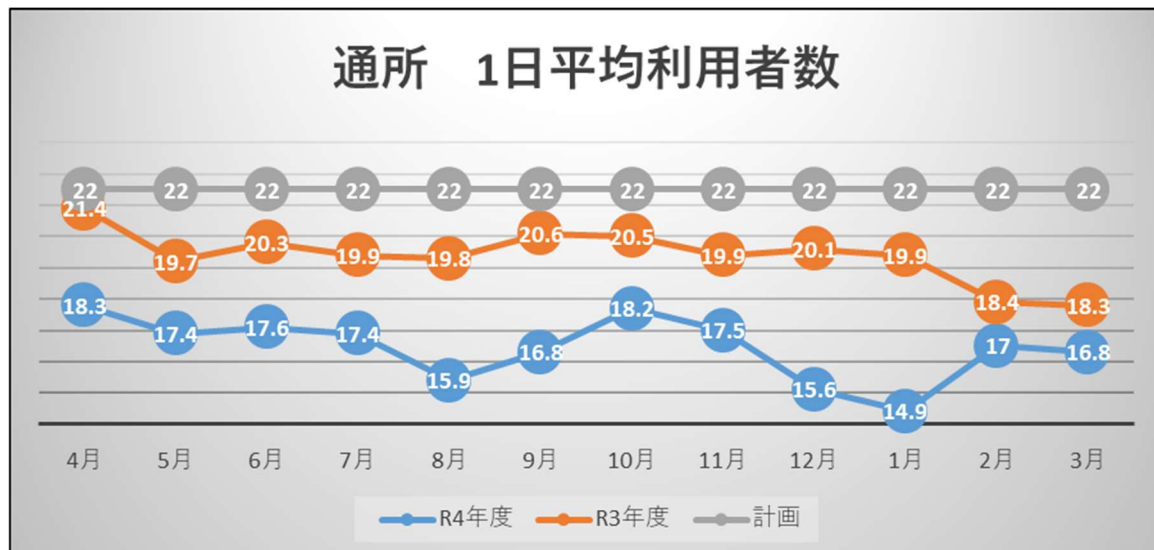
令和4年度の1月当りの平均利用者数は、合計9.6名の減少となった。

	介護	総合事業	合計
4年度	43.2	7.1	50.3
前年度	50.8	9.0	59.8
対比	▲7.6	▲1.9	▲9.6

(イ) 介護度別延べ人数対比

延べ人数は、前年度から1,039名減、1日当りの利用人数は17.0名で前年比2.9名減少となった。介護度別では、要支援者等が87名減少し、要介護者が952名減少した。

介護度	事対者	要支1	要支2	小計	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	小計	合計	1日平均利用者
4年度	0	101	419	520	1,145	1,101	1,371	557	363	4,537	5,057	17.0
前年度	85	121	401	607	1,613	1,339	1,452	654	431	5,489	6,096	19.9
対比	-85	-20	18	-87	-468	-238	-81	-97	-68	-952	-1,039	-2.9



Ⅱ. 職員の状況

[]内の人数は部署間異動

通所介護	令和4年度期首(4月)			期中		期末(3月)			配置基準
職種	人数	内非常勤	常勤換算	採用[異動]	退職[異動]	人数	内非常勤	常勤換算	
生活相談員	2	0	1.5	0	0	2	0	1.5	1
機能訓練指導員	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	1
看護職	3	2	2.3	2	3	2	1	1.8	
内 正看護師	2	1	1.8	0	0	2	1	1.8	
内 准看護師	1	1	0.5	2	3	0	0	0.0	
介護職	9	3	7.4	2[1]	5	6	0	5.5	5
内 介護福祉士	9	3	7.4	2[1]	5	6	0	5.5	
内 その他	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	
管理栄養士	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	
合計	16	5	13.2	4	8	12	1	10.8	

Ⅲ. 令和4年度事業計画の実施状況について

(1) 通所介護事業所(介護予防)[定員35名] 1日平均利用者数 17.0名

*介護給付利用者 15.2人 (日曜日および元日以外稼働)

総合事業利用者 1.7人 (日曜日および元日以外稼働)

実利用者 介護 43.2人 総合事業 7.1人

新規利用者 14人獲得 廃止 19人

<報告事項>

1日平均22名目標に対し、年間17.0名となった。廃止(長期入院)が年間19名、実利用者は、介護60人の目標に対し、平均43.2人で16.8人マイナス。総合事業10人の目標に対し、平均7.1人で2.9人のマイナス。新規利用者30人目標に対して14人獲得。特養での感染クラスターで7/27~8/6の12日間、12月と1月の大雪の影響で3日間、年間合計15日間の自主休業を行った。

① 自立支援・重度化防止の取組の推進

- ・機能訓練、栄養の一体的な取組
- ・科学的介護の取組

<報告事項>

機能訓練加算Ⅰの加算80%以上を目標にし、100%で達成となった。

② 専門性の高いサービス提供の実践

- ・中重度の対象者であっても社会性の維持を図り在宅生活の継続のケアを計画的に実施するプログラムの作成(中重度ケア体制加算)
- ・認知症の症状の進行の緩和のケアを計画的に実施するプログラムの作成(認知症ケア加算)
- ・年間計画での勉強会の実施

<報告事項>

中重度者ケア体制加算(要介護3以上) 45%の目標→47.8%達成。

認知症加算(認知症度Ⅲ以上) 30%の目標→40.0%達成

4名の認知症実践者研修修了者が評価・記録を実施。

サービス提供時間は以下の表のとおり。

所要時間	4-5 時間	5-6 時間	6-7 時間	7-8 時間	合計
4 年度	93	49	4,018	365	4,525
	2.1%	1.1%	88.7%	8.1%	
前年度	76	57	4,910	449	5,492
	1.4%	1.0%	89.4%	8.2%	

部署内の勉強会の実施内容

テーマ	実施日	参加人数
身体拘束・虐待防止	4/23	6
介護マニュアル 入浴	5/21	6
感染症対策	6/15	6
災害対策	7/20	7
感染症対策	9/28	6
ノーリフトケア	10/26	6
コンプライアンス・個人情報保護	11/9	8
認知症ケア	1/18	6
介護マニュアル 食事	2/22	7
リスクマネジメント	3/24	5

業務マニュアルの見直しと活用

3 大介護：入浴・食事・排泄のマニュアル改訂実施

Ⅳ. クレーム対応[令和 4 年度苦情報告]・・・1 件

① 令和 4 年 7 月 7 日（木）8：30 頃 受付

地域住民より、当法人の送迎車両がスピードも出ており非常に危険を感じた。運転について改めてほしい。

【対応】謝罪を行い、ドライバーへの教育を行い改善すると伝える。

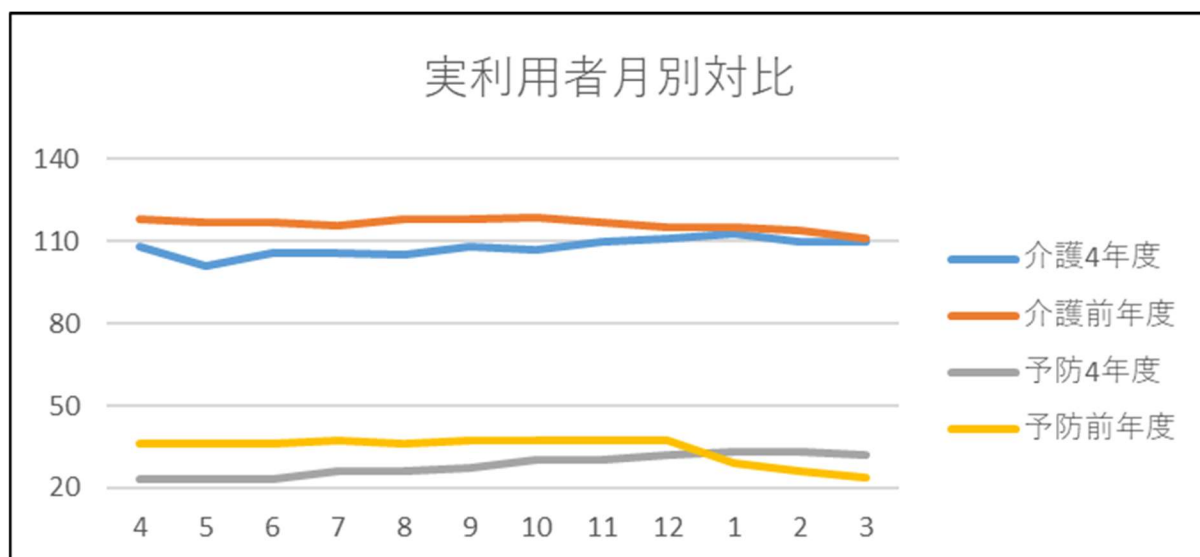
4. 陽光の家 居宅介護支援事業所

I. 利用者の状況

(ア) 実利用者数（介護）（介護予防 各地域包括支援センターより受託）

令和 4 年度の 1 月当たりの件数は、107.9 件。前年度より月平均 8.4 件減少。介護予防給付は、月平均 28.2 件。前年より 5.8 件減少している。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
介護4年度	108	101	106	106	105	108	107	110	111	113	110	110	107.9
介護前年度	118	117	117	116	118	118	119	117	115	115	114	111	116.3
予防4年度	23	23	23	26	26	27	30	30	32	33	33	32	28.2
予防前年度	36	36	36	37	36	37	37	37	37	29	26	24	34.0



(イ) 介護度別延べ人数

前年対比で要介護は 100 名減少、そのうち介護予防等が 70 名減少。

介護度	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	介予	合計	月平均
4年度	527	332	228	121	87	338	1,633	136.1
%	32.3	20.3	14.0	7.4	5.3	20.7	100.0	
前年度	575	389	215	129	87	408	1,803	150.5
%	31.9	21.6	11.9	7.2	4.8	22.6	100.0	
対比	▲ 48	▲ 57	13	▲ 8	0	▲ 70	▲ 170	▲ 14

Ⅱ. 職員の状況

[]内の人数は部署間異動

居宅介護支援	令和4年度期首(4月)			期中		期末(3月)		
職種	人数	内非常勤	常勤換算	採用[異動]	退職[異動]	人数	内非常勤	常勤換算
介護支援専門員	3	0	3.0	0	0	3	0	3.0
合計	3	0	3	0	0	3	0	3

Ⅲ. 令和4年度事業計画の実施状況について

① 住み慣れた地域で継続的な生活の支援

- ・状態の維持・改善を目指した自立支援型ケアマネジメントの実践

< 報告事項 >

【要介護度の維持改善】

介護保険更新結果

維持	改善	悪化	合計
30	7	27	64

悪化が 42.2%で、半数を下回った。

【自立支援型のケアマネジメントの実践】

計画作成

介護	予防（総合事業含む）
137	27

ICF、ポジティブプラン、インフォーマルサービスの利用を考えプラン作成に努めた。

【24時間相談における対応】

- ・24時間連絡体制の確保 24時間対応 23件
- ・公正中立・質の高いケアマネジメントの実践

【事業所内研修の実施・事業所外研修の参加】

【フィードバック情報活用マネジメントの実践】

【AI・ICT活用のマネジメント実践】

- ・地域包括支援センターとの情報連携

<報告事項>

施設外研修、事例検討会、佐伯区自主勉強会などに参加した。

担当者会議開催 125 回のうち、医師・看護師・MSW・PT・OT・ST・薬剤師 35 名。リハビリ会議 21 回（オンライン含む）。

② 医療機関等との情報連携強化

- ・主治医との情報連携
- ・中重度者・看取り期の利用者対応

【入院時、平時からの医療機関との連携促進】

【退院・退所時の在宅生活への円滑な支援】

<報告事項>

相談・苦情 本人・家族から 51 件、包括から 63 件、病院から 22 件、その他から 23 件、苦情は 0 件。

初回加算 27 件、入院時連携加算ⅠⅡ 35 件、退院退所加算Ⅰ-ロ 1 件、医師への面会 21 回
入院時には、入院先へ連絡情報提供を行い、情報の共有、スムーズな在宅復帰に努めた。

Ⅳ. クレーム対応[令和4年度苦情報告]・・・0件

6. 広島市城山・五日市観音地域包括支援センター

I. 事業実施状況

事業実施場所：広島市佐伯区千同一丁目 30-6 高東ビル 1 階

圏域：広島市立城山中学校及び同五日市観音中学校 校区内

圏域高齢者人口：9,538 人 高齢化率：29.74% (令和 5 年 3 月現在)

		八幡	観音西	観音	合計
高齢者人口 (人)	R5.3	3,688	2,850	3,000	9,538
	R4.3	3,932	3,356	2,995	10,283
	対比	▲244	▲506	5	▲745
高齢者率 (%)	R5.3	32.0	33.5	24.6	29.7
	R4.3	34.0	30.5	24.9	29.7
	対比	▲2.0	3.0	▲0.3	0.0

【広島市受託事業一覧】

受託業務名	4 年度	3 年度	対比
広島市地域包括支援センター運營業務(包括的支援事業)	43,082,000	41,882,000	1,200,000
広島市地域介護予防拠点整備促進事業	5,577,000	5,577,000	0
合計	48,659,000	47,459,000	1,200,000

区分		実施結果	
		開催回数・件数等	内 容
包括的支援事業	総合相談	・地域ケア会議 開催回数 12 回 ・地域団体の会議 参加回数 14 回	・各学区新規相談も、「整形疾患」「認知症疾患」「内科疾患」に関する相談が多く、予防方法や対応方法の予防教室を実施した。 ・ACP 普及啓発研修会を各小学校区で行った。
	権利擁護	・高齢者虐待対応 対応件数 20 件 ・権利擁護啓発研修会 開催回数 1 回	高齢者虐待対応件数 20 件 (内 8 件は警察通報件数) で昨年度の総数を大きく上回っている。 地域住民対象の権利擁護研修会、サービス事業所対象研修会を各 1 回行った。 ※コロナ禍の影響で計画していた研修会が中止となった。
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	・ケアマネ連絡会・研修会 開催回数 29 回	「処遇検討会・個別地域ケア会議」 11 回 「ケアマネ自主勉強会」 6 回 「主任介護支援専門員ネットワーク研修会」 5 回 「佐伯区ブロック研修会」 7 回 ※オンライン開催が主流となり、ほぼ計画通りに開催することができた。

区分		実施結果	
		開催回数・件数等	内 容
	介護予防 ケアマネジメント	・センター職員担当件数 総数 3,785 件 1人あたり平均 21.3 件	委託職員 8 名平均 直営 160 件、委託 150 件（直営実施率 51.6%） 介護予防プランナー1 名平均 41.0 件
	その他	・介護予防教室開催回数 口腔機能向上教室 6 回 低栄養予防教室 18 回 認知症予防教室 3 回 運動機能向上教室 21 回	公民館、集会所と地域住民の集まりやすい場所を選定し、「介護予防」の視点からセンター独自で介護予防教室を行い、介護予防の重要性を住民に対して啓発を行った。
重点事業	地域介護予防拠点整備促進事業	・介護予防拠点 立ち上げ箇所数 21 か所	地域介護予防拠点数が 21 か所拠点の立ち上げができています。 新規立ち上げ（薬師が丘第一集会所） 参加者数 681 名。（圏域高齢者人口 0.7%）
	高齢者地域支え合い事業	・事業実施か所数 2 か所 ・ネットワーク組織 立ち上げか所数 0 か所	観西地区は、年 1 回のモニタリングの実施、年 1 回の役員会を行った。登録者 42 名。 観音地区は、年 1 回のモニタリングの実施。登録者 37 名。 八幡地区は、見守り活動のシステム化ができるように地域団体への説明・働きかけを行った。
	在宅医療・介護連携推進事業	・情報交換会・意見交換会 開催回数 1 回	・医師、歯科医師、薬剤師、地域連携室、介護支援専門員、サービス事業所等との連携を図り、佐伯区生活期・回復期連携推進会議を 2 回行い、認知症テーマ、ACP の理解に向けた研修会を開催した。（オンライン開催） ・地域住民向けに ACP の理解をテーマに研修会を 4 回開催する。 ・看取りに関する情報交換会、Death カンファレンス実施（オンライン実施）
	認知症地域支援体制づくり	・認知症サポーター養成講座 開催回数 3 回 ・認知症サポーター ステップアップ講座 開催回数 3 回	・五日市観音中学校においても認知症サポーター養成講座を開催することができ、認知症に関する知識の普及啓発に努めた。（オンライン開催） ・各地区 3 か所で認知症サポーター養成講座を開催することが出来、地域住民に認知症への理解を深めることが出来た。 ・認知症サポーターステップアップ講座を開催することで地域住民による認知症の方への支援方法学んだ。 ・認知症初期集中支援チームへの依頼をし、チーム会

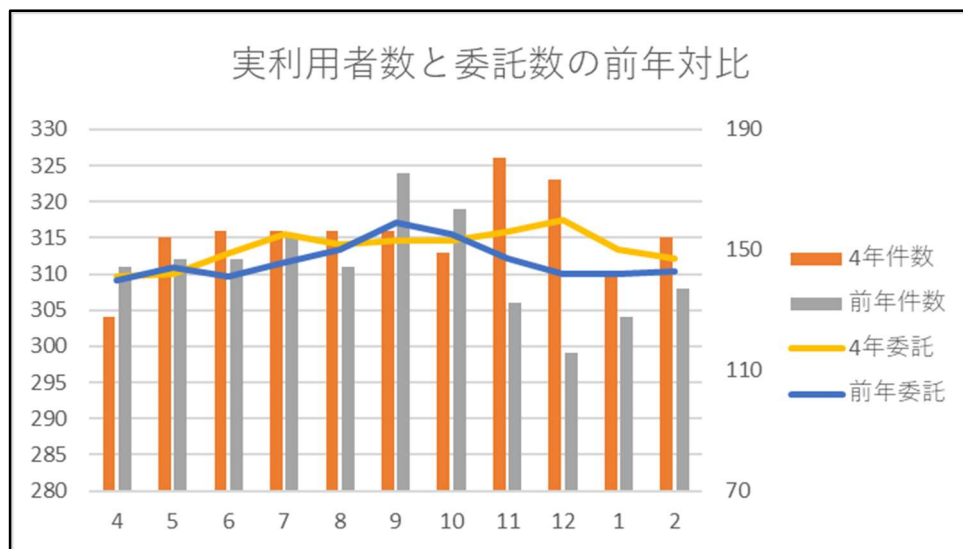
区分		実施結果	
		開催回数・件数等	内 容
			議にも参加する事が出来き、対応方法、支援体制について検討した。 ・認知症カフェ（出張型）支援を行った。
	介護予防ケアマネジメントの更なる強化	・地域ケアマネジメント会議 参加回数 6回	感染症予防の配慮から、開催予定の半数を開催する事が出来た。個別のアセスメント・ケアプランに係る質をより一層強化し、「自立支援」に向けての助言・指導ができるようになる。（オンライン開催実施）
その他		・ケアマネ事例検討会 開催回数 6回	感染症予防の配慮から、開催場所を検討し、オンライン開催も実施した。対象者の自立を目指した支援が行えるよう、居宅の介護支援専門員のマネジメント能力・アセスメント能力がより向上するように、圏域居宅介護支援事業所のケアマネジャーと共に事例検討会を開催した。

（１）介護予防支援業務

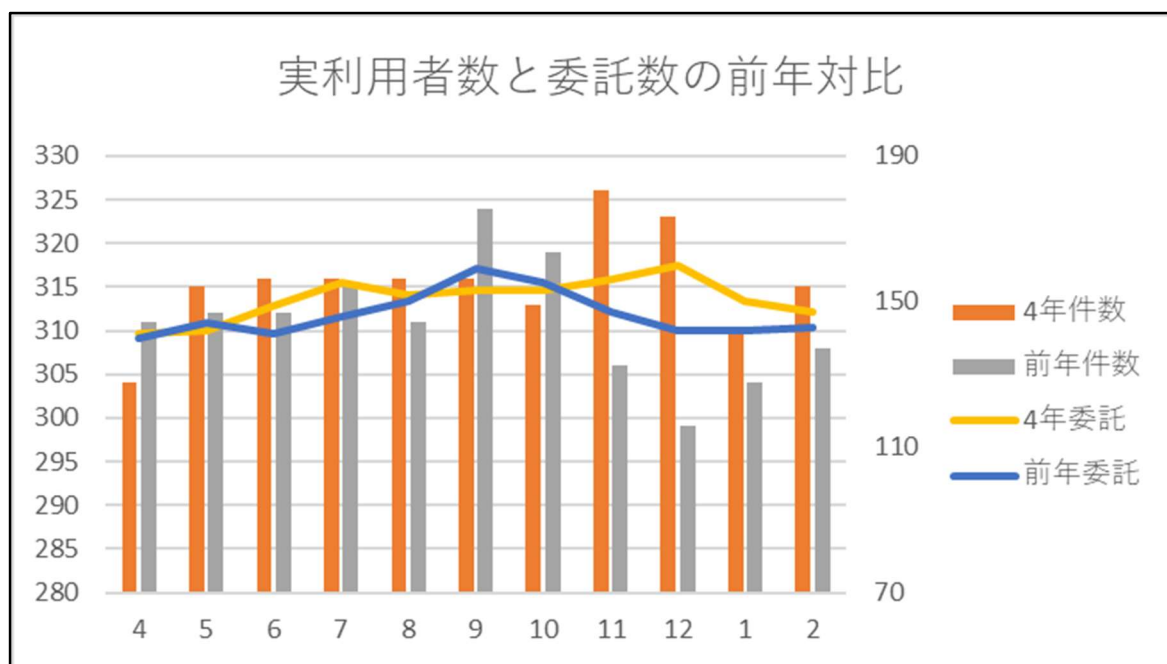
① 利用者の状況

（ア）利用者数月別推移と外部委託件数

４年度は、１月当たりの平均利用件数で、前年を平均４.１件上回った。外部委託件数は、平均４.５件増加しており、委託比率は４７.６％で、前年比０.８％増加した。



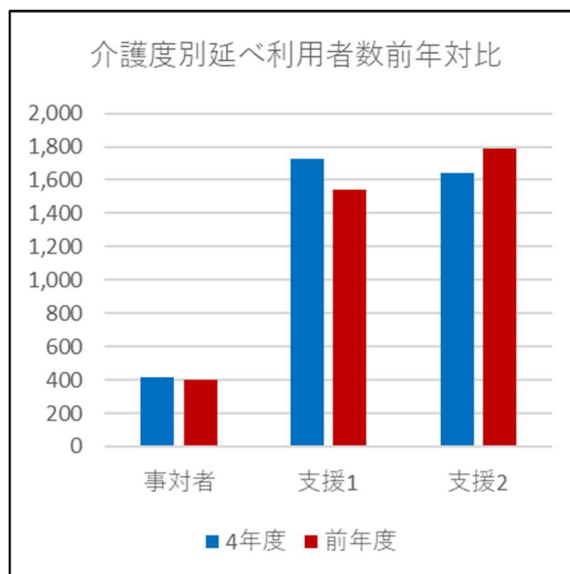
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
4年件数	312	304	315	316	316	316	316	313	326	323	310	315	315.2
4年委託	144	141	142	149	155	152	153	153	156	160	150	147	150.2
4年%	46.2	46.4	45.1	47.2	49.1	48.1	48.4	48.9	47.9	49.5	48.4	46.7	47.6
前年件数	312	311	312	312	315	311	324	319	306	299	304	308	311.1
前年委託	139	140	144	141	146	150	159	155	147	142	142	143	145.7
前年%	44.6	45.0	46.2	45.2	46.3	48.2	49.1	48.6	48.0	47.5	46.7	46.4	46.8



(イ) 介護度別利用者延べ利用者数前年対比

介護度別では、事業対象者が13人増、要支援1が186人増、要支援2が150人減少した。

介護度	事対者	支援1	支援2	合計
4年度	413	1,728	1,641	3,782
%	10.8	39.6	49.6	100
前年度	400	1,542	1,791	3,733
%	10.7	41.3	48.0	100
対比	13	186	-150	49



Ⅱ. 職員の状況

[]内の人数は部署間異動

地域包括 職種	令和4年度期首(4月)			期中		期末(3月)		
	人数	内非常勤	常勤換算	採用[異動]	退職[異動]	人数	内非常勤	常勤換算
保健師	3	0	3.0	0	0	3	0	3.0
社会福祉士	2	0	2.0	0	0	2	0	2.0
主任介護支援専門員	2	0	2.0	0	0	2	0	2.0
介護支援専門員	2	0	2.0	0	0	2	0	2.0
合計	9	0	9	0	0	9	0	9

Ⅲ. 令和４年度事業計画の実施状況について

① 介護予防の促進

- ・「介護予防教室」公民館、集会所と地域住民の集まりやすい場所を選定し、「介護予防」の視点からセンター独自で介護予防教室を行い、介護予防の重要性を住民に対して啓発を行った。

教室	回数
口腔機能向上教室	6
低栄養予防教室	18
運動機能向上教室	21
認知症予防教室	3
合計	48

- ・「介護予防拠点整備事業（いきいき百歳体操）」

地域拠点整備促進事業の事業箇所 21 ヶ所の拠点運営を行っている。体力測定 18 か所おこなった（実利用者数 681 名参加）。

- ・保健事業と介護予防一体的事業の教室（5 ヶ所実施）

② 介護予防マネジメントの質の更なる強化

「地域ケアマネジメント会議」 参加回数 6回

地域ケアマネジメント会議に参加する事により、個別のアセスメント・ケアプランに係る質をより一層強化し、「自立支援」に向けての助言・指導ができるようになる。

「圏域内 ケアマネ事例検討会を開催」 参加回数 12回

対象者の自立を目指した支援が行えるよう、居宅の介護支援専門員のマネジメント能力・アセスメント能力がより向上するように、「自立支援」に向けたマネジメントができるよう、毎月、圏域居宅介護支援事業所のケアマネジャーとともに事例検討会を開催した。（オンライン開催）

③ 高齢者地域支え合い事業の推進

- ・観西地区は、年1回のモニタリングの実施（登録者 42 名）、年1回の役員会を行った。
- ・観音地区は、年1回のモニタリングの実施。（登録者 37 名）
- ・八幡地区は見守り活動のシステム化ができるように地域団体への説明働きかけを行った。

④ 在宅医療・介護連携の推進

「生活期・回復期連携推進会議 年2回開催」

「生活期・回復期連携推進会議」 年2回

日	テーマ	参加者
7/22	ACPの必要性和課題について学び、医療介護関係者が連携して実施できること 講演：「ACPの必要性和課題・在宅看取りで見えたこと～終活専門家として、家族として～」 講師：特定非営利活動法人エンディングノート普及協会 理事長 赤川なおみ 先生（オンライン開催）	14人
12/9	レビー小体系認知症の方の接し方や対応方法と認知症の方の社会資源や支援体制について 講義「レビー小体型認知症について」 講師 ナカムラ病院 梶川 広樹先生 事例紹介「レビー小体型認知症の夫と主介護者の妻の支援をしている事例」 事例発表者 居宅介護センターとも 上本 美智子氏 グループワーク「レビー小体型認知症の方の接し方や対応方法と認知症の方の社会資源や支援体制について」（オンライン開催）	38人

「Deathカンファレンス研修会」 1回開催

日	テーマ	参加者
3/20	看取りにおける多職種連携会議（模擬デスカンファレンス） ～「身寄りのない方へのターミナル支援」 古井医師（平尾クリニック）、登CM（ニチイ）～（オンライン開催）	15人

「ACP市民向け教室」 3回開催

日	テーマ	参加者
10/5	『暮らしに役立つ介護保険制度～介護保険で利用できるサービス～』（坪井公民館） 地域包括支援センター 門脇 宏樹 介護保険の制度や利用できるサービスを理解し、健康寿命を延ばし、介護サービスの利用の仕方を考えながら、人生の心がまえ（自分の覚え書き＝ACP）も共に考えられるように意識づけを行う。	30人
11/17	今日からの人生を考えてみよう「人生の覚え書き」 （八幡公民館） 広島県ACP推進委員 訪問看護ステーション管理者 吉次 浩子	28人
1/20	今日からの人生を考えてみよう「人生の覚え書き」 （観音台公民館） 広島県ACP推進委員 訪問看護ステーション管理者 吉次 浩子	21人

「かかりつけ医紹介事業」

- ・かかりつけ医が見つからない相談者に対し 4 件紹介した。

⑤ 認知症地域支援体制づくりの推進

テーマ	学区その他	日	参加人数
認知症サポーター養成講座	五日市観音	6/29	17 人
	広島銀行五日市中央支店	8/4	8 人
	広島銀行五日市中央支店	9/22	5 人
	観音西（五観中）	9/22	149 人
	広島銀行 八幡支店	12/6	19 人
認知症サポーター ステップアップ養成講座	八幡 No.1	10/27	10 人
	八幡 No. 2	11/17	8 人
	八幡 No. 3	12/1	8 人
認知症サポーター フォローアップ養成講座	八幡	6/8	3 人
	坪井	1/25	7 人
消費者被害予防研修	八幡	10/20	24 人
	観西	11/25	14 人
	坪井	1/18	8 人
権利擁護研修	圏域内（オンライン開催）	3/10	25 人

⑥ その他

（ア）地域実態把握シートのデータ更新（ＩＣＴ活用）を随時行うとともに、引き続き、地域資源マップ、介護予防マップ等による情報の活用を進める。「地域社会資源マップ」や介護予防に係るデータを見える化し圏域住民に情報提供を行っている。（iPad による介護予防拠点会場の可視化）

（イ）地域包括支援センターの広報誌発行し、地域課題の提案、発信をする。（8 月、2 月 発行）

Ⅳ. クレーム対応・・・令和 4 年度は、苦情報告、対応は 6 件。

① 申出日：令和 4 年 7 月 20 日（金） 申出者：介護支援専門員

【内容】

本人から区に「介護サービスを使いたい。」と相談があった。認定がおりている状態で、「包括が申請をした時には、サービスについては何も教えてくれなかったもので、どうしたらいいのかわからない。」と言っている。

【対応】

介護サービスがどんなものがあるかから説明をするため訪問したいこと、本人一人で不安であれば家族が家にいる時に訪問可能なことを告げる。相談してみるとは言われるが、前回訪問時介護サービスについて説明したにもかかわらず、「説明を受けていない。」と区に話していることから、物忘れや難聴で聞

こえていない可能性があり、長男に直接電話し日程調整することを提案し了解される。

② 申出日：令和4年10月11日（火） 申出者：国保連苦情担当者

【内容】

給付管理実績で支給限度額オーバーがあるようである(10,740 円)、包括より支給限度額をオーバーの説明は受けたが、今後の支払い方法等の説明がないので相談した。以前、担当してもらったケアマネさんは、事前の説明が無く、本人のケアで困っているときにも、よりよい提案がなかったことの苦情があった。詳細の状況が不明であるため、確認も含めて連絡をしたとのことであった。

【対応】

9月分の給付管理実績にて、支給限度額をオーバー(10,740 円)していることについては、利用者に了解してもらったと話しをする。担当ケアマネの対応については、現在、虐待案件対応中であると話をする。居宅事業所変更に伴い担当になったケアマネさんであること、サービス利用の調整については適切に行っていたと思うが、経験の浅いケアマネさんであるために連絡が後手に回ったと思われるが、結果的に、介護者の負担が重くなり虐待(暴言、暴力)につながったのではないかと想定することを話す。

③ 申出日：令和5年1月17日（火） 申出者：家族

【内容】

介護保険の制度(負担割合、介護度など)について、責任者のセンター長と話がしたいとのこと。知人の娘(CM)より、掘り下げて責任者の方と話してみた方が良いのではと勧められ相談をしたかった。

【対応】

負担割合3割については、前々年度の所得が反映されるため、11月に申請をしたから3割の負担は制度上やむを得ないことを説明する。(約0.5%認定者が負担割合3割であることを説明する)

介護度についても、本人が5か月入院していたので調査がどのように行われてこのような結果が出たのか分からないが、要介護度の介護サービスを適正に利用してほしいことを話をする。(8月には新しい負担割合証が送付されてくるので、負担軽減につながると思われることを説明する)

④ 申出日：令和5年1月23日（月） 申出者：家族

【内容】

施設契約について、1/24(火)に契約時の同行訪問をお願いしたが、同行訪問をしてもらえないのはどうしてか？ 陽光の家居宅介護支援事業所のケアマネは同行してくれた。家族の負担が大きくなっているにも関わらず、包括の担当ケアマネは対応してくれなかった。

【対応】

センター長が対応し家族には謝罪、居宅介護支援事業所のケアマネさんの入所時同行についての目的は不明であるが、施設契約は、本人・家族と施設側の契約となるのでケアマネは同席しない旨を伝える。引継ぎに関しては、相談員より包括に連絡し、必要な書類・情報は提供をする。

介護度の区分変更申請については、入所後の本人の状態をみて、担当してもらおう施設ケアマネをお願いをする。

⑤ 申出日：令和5年1月25日（水） 申出者：本人

【内容】

広報誌の掲載された「後ろ姿が写った写真」を掲載したいと電話連絡があり了解したが、実際に広報誌を見た時に自分が思っていたよりも後ろ髪が乱れていたショックを受けた。写真を見て許可を出すかどうか決めればよかったと後悔したので、今後他の人に対しては掲載する実際の掲載写真を見せて了解を取った方がいいとアドバイスをいただく。

【対応】

実際の写真提示をしなかったことを謝罪し、今後掲載する時には十分に気をつけるよう伝える。

⑥ 申出日：令和5年2月16日（木） 申出者：民生委員、家族

【内容】

介護保険の制度（サービス利用介護度など）について、センター職員が訪問した際に、病状（うつ病疾患）が不安定なため介護サービス利用より、医療的な治療を優先されたほうが良いのではといわれた、要支援1認定があるが、デイサービス等の利用はできないのであろうか？

【対応】

認定介護度について、調査の内容を再度説明し項目等に該当しているのかどうかを家族とともに確認してもらう。介護予防サービス利用について説明を再度行い、希望のデイサービス利用については問題ないことを説明し、現在の本人の状況からも、精神的な不安を改善する意味でも医療的な受診をしてもらうことも話をする。